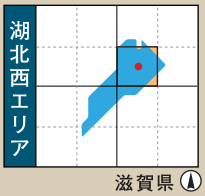
名勝史跡
国指定

竹生島（ちくぶしま）

びわ町早崎　昭和5年7月8日指定



竹生島は、奥琵琶湖に浮かぶ霊島で、琵琶湖を利用した水運が重要な地位を占めていた時代においては、この島は湖上の目印であり、船人達の心の支えともなっていました。その後、琵琶湖の水に端を発する水神信仰、さらには弁財天に対する信仰、観音菩薩に対する信仰の霊場となり、今なお多くの人を引きつけています。

当時のできごと	
731年	大伴旅人没す
752年	東大寺大仏開眼
1615年	大阪夏の陣 豊臣氏滅びる



竹生島全景

竹生島の立地

竹生島は、琵琶湖北部の葛籠尾崎の南約2kmに位置する、周囲約2km、面積が約0.14㎢の石英斑岩からできている小島です。岩礁の竹生小島を伴い、全島が杉、松などの常緑樹で覆われ、社寺以外には人の住まない聖地となっています。

暖かな気候のせいか、暖地性の植物も多く見られ、野鳥も多く生息し、サギ類の繁殖地として有名でしたが、近年ではカワウが数を増し、生態系が変わりつつあります。

景勝地としても名高く、「深緑竹生島の沈影」として琵琶湖八景の一つに数えられています。



湖西から竹生島と伊吹山を見る



宝厳寺渡廊



都久夫須麻神社本殿



宝厳寺弁財天堂

霊島としての歩み

竹生島は、その時々の人達の厚い信仰を集めてきました。聖地竹生島の起源は明らかではありませんが、縁起によれば、天平3年（731）に行基が四天王像を安置したのに始まり、その後、天平勝宝5年(753）元興寺の僧泰平、東大寺の僧賢円が千手観音を祀ったことにより基礎が形造られました。

その後、整備が進み、9世紀頃には水神信仰の中心となる神宮寺が成立し、さらに、水神は弁財天に変化します。また、「聖の住所」として、観音霊場として位置付けられ、12世紀には観音霊場33カ所の一つに数えられるようになります。

度重なる災害や火災を受けますが、足利尊氏、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康など、時の権力者の支持を受け復興を遂げています。現在見られる壮麗な建物群からなる宗教的景観は、豊臣秀頼の手によるものです。

関連する文化財

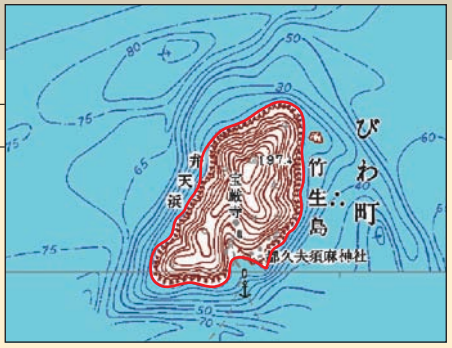
宝厳寺の建造物（国宝・重文）	建物群は豊臣秀頼の命により整備されたもので、豊国廟の建物を移したと伝えられる。桃山時代の様式をよく残す
駿河国銅印（宝厳寺）	駿河国の正倉で使われていた銅印。なぜ宝厳寺に伝わるのかは不明

もっと深く知りたい

宝厳寺宝物殿　☎0749-63-4410　東浅井郡びわ町早崎竹生島1664-1

びわ町教育委員会　☎0749-72-4300　東浅井郡びわ町難波448

竹生島へのアクセス　近江今津港、長浜港、飯浦港、彦根港より船



【参考文献】〔図説日本の史跡〕同朋舎

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月